

2液弱溶剤フッ素樹脂外壁用遮熱塗料

# パラサーモフッ素外壁用

【初版】

# 信頼と実績を誇る遮熱技術にフッ素樹脂を融合。 最高の耐候性と耐久性を両立した多機能遮熱塗料です。

## 特長

### 1 最高の耐候性と耐久性で外壁を守ります。

弱溶剤フッ素樹脂による、高耐候性と高耐久性を兼ね備え、外壁の美観を長期間維持し続けます。

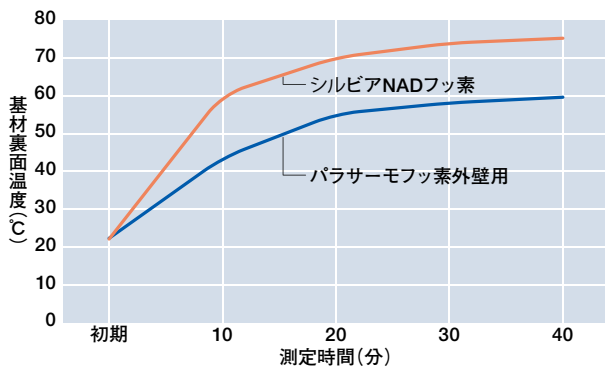
### 2 優れた遮熱性を発揮します。

太陽光に対する反射率の優れた着色顔料と熱放射率に優れたセラミックに、当社独自の技術によりフッ素樹脂を融合。各種外壁材に塗装することにより、室内への熱の侵入を遮断し、室内の温度上昇を抑えることができます。エアコンなどの空調設備の省エネ効果に抜群の性能を発揮します。

●**ご注意**：基準色より既存塗膜が淡色系の場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもございますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所にご確認ください。

#### ●遮熱試験(自社試験)

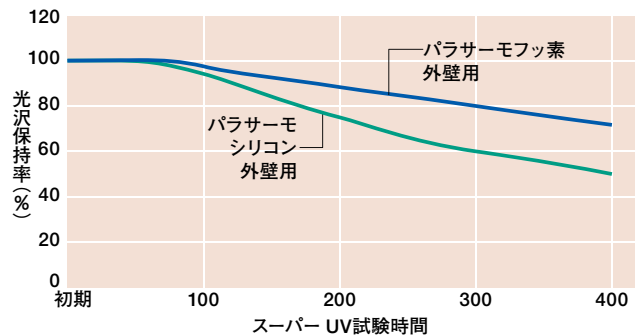
厚さ：3mmスレート板 色相：グレー系(R-805P)  
300Wレフランプ照射



※パラサーモフッ素外壁用とシルビアンADフッ素とのスレート板裏面温度差は約15℃あります。

#### ●各種塗料の促進耐候性比較グラフ(自社試験)

色相：グレー系(R-805P)



※促進耐候性試験機(スーパーUV)で耐候性の比較試験を実施しました。  
※スーパーUV100時間は屋外曝露約2~4年に相当します。

### 3 高光沢な色彩で外壁を美しく彩ります。

肉持ち感のある塗膜を形成。光沢のある鮮やかな外観を実現します。また、色彩も豊富にラインアップ。お好みのカラーで外壁を彩ります。

### 4 さまざまな外壁材に塗装できます。

弱溶剤系のため新規塗装にも塗り替えにも対応します。また、下塗り(プライマー)の選択により多様な外壁材をカバーする高い拡張性を発揮。各種複層材の上塗り、モルタル、スレート、サイディングボードなどの外壁や鉄部、硬質塩ビなどの塗り替えに幅広く使用できます。

### 5 防かび・防藻性で美観を維持します。

当社が有する防かび・防藻塗料の配合技術を応用することにより、長期にわたって、かびや藻から外壁を確実に保護します。

## 用途

- コンクリート、モルタル、金属面の外壁
- スレート、窯業系サイディングボード、無機系ボードの外壁
- PC板、コンクリートパネルなどの外壁
- 複層仕上げ塗材の外壁

## 標準色(22色)

- |         |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ●R-804P | ●R-808P | ●R-819P | ●R-828P | ●R-840P | ●R-847P |
| ●R-805P | ●R-814P | ●R-820P | ●R-829P | ●R-841P | ●R-849P |
| ●R-806P | ●R-815P | ●R-821P | ●R-834P | ●R-843P |         |
| ●R-807P | ●R-818P | ●R-822P | ●R-839P | ●R-845P |         |

●色相に関しては「NTダンネツコート標準色 色見本帳(第2版)」ニツクの外装用遮熱標準色見本帳をご参照ください。

●本製品は特殊な顔料を使用しており、膜厚や標準以上の希釈量では色目が少し変わります。ご注意ください。

●パラサーモフッ素外壁用は、標準色以外の色相(特注色)に対応できません。 ●艶調整は3分艶、5分艶、7分艶に対応できます。

●色相により、遮熱効果が異なりますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。

# 標準塗装仕様

工程数	①	②	③	④
塗り替え遮熱仕様 [既存塗膜あり、硬質塩ビ管]	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	—	—
改修遮熱仕様 [一般壁面、一般鉄部、非鉄金属部]	●エポラオールプライマー遮熱ホワイト 使用量0.13~0.16kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	—
シルビアサーフ ウールローラー工法 遮熱仕様	●シルビアサーフ 使用量0.3~0.5kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	—
シルビアサーフ 大波工法 遮熱仕様	●シルビアサーフ 使用量0.8~1.5kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	—
NTダンネツベース 大波工法 遮熱・断熱工法	●NTダンネツベース 使用量0.5~1.0kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	—
NTダンネツベース+ NTダンネツコート大波 遮熱・断熱工法	●NTダンネツベース 使用量0.5~1.0kg/m <sup>2</sup>	●NTダンネツコート 使用量0.6~0.8kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>	●パラサーモフッ素外壁用 使用量0.12~0.15kg/m <sup>2</sup>

※記載の仕様は標準塗装仕様です。施工環境、施工条件、下地の凹凸などにより、使用量は増減します。

※「パラサーモフッ素外壁用」は遮熱塗料のため、下塗りの「エポラオールプライマー」の色相は「遮熱ホワイト」を推奨します。「エポラオールプライマー」は「グレー」「赤サビ」もご使用いただけます。

※吸い込みが激しい下地の場合は、下塗りの塗布量が0.3~0.5kg/m<sup>2</sup>になる場合があります。吸い込みが激しい場合は下塗り「エポラオールプライマー」より「エポラ浸透遮熱プライマー」を推奨します。

※一般鉄部は「エポラ#1遮熱プライマー」、非鉄金属部は「エポラ#3プライマー」もご使用いただけます。不明な点は最寄りの営業所へお問い合わせください。

# 構成製品一覧

	下地の種類	製品名	色相	荷姿	塗装方法・(希釈量)	希釈剤	可使時間 (23℃)	施工間隔 (23℃)
下塗り	●一般壁面 ●一般鉄部 ●非鉄金属	エポラオールプライマー	・グレー ・赤サビ ・遮熱ホワイト	16kgセット	●ローラー、刷毛 …無希釈	—	6時間以内	3時間以上 72時間以内
				4kgセット				
	●モルタル、スレート、サイディング グボードなどの 吸い込みの多い 下地の場合	エポラマイルドプライマーS	・クリアー	16kgセット	●ローラー、刷毛 …無希釈	—	6時間以内	2時間以上 7日間以内
				28kgセット				
	●一般鉄部 ●トタン	エポラ#1遮熱プライマー	・淡ブルー	16kg	●ローラー、刷毛 …(0~1.6kg) ●スプレー …(0.8~2.4kg)	塗料用 シンナーA	—	4時間以上 7日以内
●非鉄金属 (ガルバリウム鋼板、 ステンレス・アルミ ニウム金属、亜鉛 メッキ鋼板など)				エポラ#3プライマー				
下塗り兼 中塗り	●既存塗膜がある モルタル、スレート、サイディング グボードなどの 外壁	シルビアサーフ	・ホワイト系		16kg	●中毛ローラー …0.5~1.6kg ●砂骨ローラー …0~0.5kg	水	—
		NTダンネツベース	・ホワイト系	12kg	●砂骨ローラー …0~0.36kg	水	—	16時間以上 72時間以内
		NTダンネツコート	・ホワイト系	10kg	●砂骨ローラー …0~0.3kg	水	—	2時間以上 72時間以内
上塗り	パラサーモフッ素外壁用	標準色 (特注色不可) (艶調整可能)	16kgセット	●ローラー、刷毛 …(0~1kg) ●スプレー …(0~2kg)	塗料用 シンナーA	6時間以内	2時間以上 72時間以内	
			4kgセット					A液: 3.5kg B液: 0.5kg

●上記の2液塗料は、気温30℃以上で可使時間が極端に短くなり「2時間」程度になります。夏場はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間」以内に使い切るようにしてください。

●「パラサーモフッ素外壁用」は、改修下地の既存塗膜が柔らかい場合の塗膜割れ防止として、「弾性B液」も設定しています。不明な点は最寄りの営業所へお問い合わせください。

## 【施工上の注意事項】

### ■素地調整について

- ①粗面やALC面、多孔質下地など、素地に問題がある場合は「NTカチオンシリウス」などを使用して、素地調整を行ってください。
- ②表面のチョーキング、ゴミ、かび類、藻類、レタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは適切な下地処理を行ってください。
- ③高圧水洗機が使用できない場合はホースで水を流しながらブラシなどを使用し、ホコリ、かび類、藻類を完全に除去してください。
- ④油分が付着している場合は中性洗剤などを使用し、除去してください。
- ⑤サビが発生している場合はワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去して、金属用のプライマーを施工してください。
- ⑥高圧水洗機やエアレススプレー塗装では、施工中のミスト飛散防止の養生を行ってください。

### ■塗料と塗装について

- ①仕様書に書かれている数値は標準的なものであり、素地の状態や形状、施工条件、気象条件などにより、多少の幅が生じることがあります。
- ②外壁表面を水洗いした後や雨、露、霜で濡れている場合は十分に乾燥させてから塗してください。
- ③降雨、降雪が予測される場合や気温が5℃以下、湿度80%以上の塗装は避けてください。
- ④塗膜が十分に乾燥しないときに降雨や結露などによる水分の影響を受けた場合、塗膜表面が白化や割れ、シミなどが発生する可能性がありますので水分の影響を受ける場合は施工しないでください。また、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。
- ⑤結露の発生する恐れのある場所や換気が不十分な場所での施工は避けてください。仕上り不良、硬化不良などの不具合が発生する可能性があります。
- ⑥塗料は必ず規定の配合比で調合し、十分に攪拌してから施工してください。また、他の塗料との混合は絶対に行わないでください。
- ⑦塗料を小分けして使用する場合はA液を十分に攪拌し、均一な状態にしてから計量してください。色ムラなどの要因となります。
- ⑧塗料の希釈は「塗料用シンナーA」をご使用ください。シンナーの種類によっては粘度低下が激しくなったり、本来の色や艶がでない場合があります。また、過剰希釈しますと隠ぺい不足や色艶の低下、外観不良などの要因となります。
- ⑨一度調合した塗料は必ず可使用時間内に使い切るようにしてください。
- ⑩硬化が不十分で塗装しますと再溶解やリフティング(塗膜のチヂリ)が発生する場合があります。
- ⑪改修工事の場合、既存塗膜の種類によっては溶剤などの影響によ

- り、既存塗膜を侵しリフティング(塗膜のチヂリ)やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ず確認の上で塗装仕様を決定してください。
- ⑫夏季、炎天下でエアレスホース内に塗料をいれたまま放置しますと、つまりの原因となります。
- ⑬風化面、吸い込みの多い下地の場合は再度、専用のプライマーなどを増し塗りしてください。
- ⑭素地の種類によっては下塗り塗料の選定および試験施工が必要になります。
- ⑮既存塗膜の劣化状況によってはプライマーや目粗しが必要になります。
- ⑯塗料の使用量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
- ⑰シーリング面への塗装は塗膜の汚染や剥離、収縮割れが発生する場合がありますので極力行なわないでください。やむを得ず使用する場合はシーリング材が完全硬化した後に、硬化剤は弾性B液を使用してください。
- ⑱シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類などにより、塗膜が付着しない場合や汚染することがありますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。
- ⑲目地幅や隙間幅が大きい場合や建物やボードの動きの激しい部位のシーリング部への塗装は塗膜が割れる場合がありますので避けてください。
- ⑳塗装方法が混在する場合、塗布量、表面肌が異なることで若干の色相差や光沢差がでることがあります。とくに補修塗りを行なう際、ローラー塗り、刷毛塗りが混在しますので、その場合は同一希釈量で行ない、補修塗りは最小範囲で行なってください(目立ちにくくなるように塗装してください)。
- ㉑ローラーや刷毛など同一面で塗装方法が異なる場合、使用量や塗装表面状態が異なるため若干色が変わって見えますのでご注意ください。また、ローラー塗りの場合はローラーの目により、仕上り色相が異なって見えることがありますので、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。
- ㉒気温が5℃以上で塗装は可能としておりますが、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- ㉓規定の塗布量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発揮されない場合がありますので標準塗布量を守って塗してください。
- ㉔コンクリートの表面は十分に乾燥させてください(表面含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型)または5%以下(ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジ))。
- ㉕シーリング材の劣化などがある場合には打ち替えを行なってください。

- ②塗り替え塗装で既存塗膜が弾性スタック、弾性リジン、アクリルトップの場合、既存塗膜がすでに膨れている、また既存塗膜の表面にピンホール(細かな気泡)が生じている場合があります。その上に塗装しますと膨れがさらに大きくなる可能性がありますので、上記の場合は既存塗膜を完全に除去してください(とくに部材が軽量モルタル、ALCパネル、業系サイディング、発泡ウレタンなどを使用した断熱工法の外壁の場合は注意が必要です)。
- ⑦艶調整品は塗り継ぎや補修などでムラが出やすくなりますので、面を区切って施工してください。
- ⑧艶調整品は艶消し剤が沈降している場合や塗料が分離している場合、攪拌機を用い十分に攪拌し、均一な状態にして塗してください。
- ⑨艶調整品は下地の状態や膜厚、希釈量、塗装間隔により、ムラが生じたり、実際に希望している艶と異なる場合があります。必ず艶を確認し、塗装条件はなるべく同一条件で塗してください。
- ⑩使用後は塗装器具メーカーの指示に従い、適切な洗浄および保管をしてください。
- ⑪希釈率は試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。ただし、希釈率は色や施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- ⑫建物の構造や部位、仕上げ、環境条件などによっては本来の低汚染が発揮されない場合があります。
- ⑬著しくかびや藻の発生しやすい環境下では防かび、防藻効果が十分に発揮されない場合があります。
- ⑭塗料の過剰希釈は仕上り不良になることがあります。規定内の希釈量で塗してください。また、塗料が濃色の場合、色相によっては2回塗りでは隠ぺいしない場合があります。その場合は塗り回数を増やしてください。
- ⑮材料の保管は直射日光を避け、雨露のあたらない冷暗所に保管してください。
- ⑯本塗料およびシンナーはすべて引火性がありますので、冷暗所に保存し、取り扱いの際は火気に充分ご注意ください。また、衛生上、塗装の際に有機溶剤の蒸気を吸わないように注意してください。
- ⑰3~7部艶あり仕上げを行なう場合、上塗り1回目に「艶あり」上塗り2回目に「3~7部艶あり」を使用してください。
- ⑱FRP、塩ビに直接塗装する場合は、素地調整で目粗しを行なってください。特に、塩ビについては、非常に密着し難い場合がありますので、あらかじめ試験施工を行なってください。
- ⑲既存塗膜がOP、FEなど油性系の場合、充分に目粗しを行なってください。目粗しが不十分な場合は、剥離の原因となります。

## 取り扱い上の注意事項

(よく読んでご使用ください)

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合は、ABC粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときは、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は手洗いおよびうがいを充分に行なってください。
- 目に入った場合は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをし、直射日光の当たらない場所に保管してください(水系塗料は凍結を避けてください)。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 詳細は警告ラベル、または安全データシート(SDS)をご参照ください。

\*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

# 日本特殊塗料株式会社

## ■お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
平塚営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
名古屋営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
広島営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
福岡営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <http://www.nttoryo.co.jp/>

## ■代理店